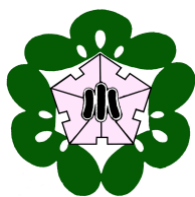


教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和6年7月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目1番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

スポーツの素晴らしさ

校長 関口 保司

先月は、5年生がハケ岳自然教室を実施しました。2泊3日の日程で、立川山荘を宿舎として、ハケ岳の自然を満喫するハイキングや川遊び、ほうとう作りやキャンプファイヤー、牧場体験等も行いました。これらのなかで、5年生の子どもたちは、自然のことや、団体生活についても、多くのことを学ぶことができました。きっとこれからの学校生活等で、学んだことを生かしていってくれると考えています。

さて7月26日よりフランスのパリでオリンピック、8月28日よりパラリンピックが開催されます。私はスポーツが大好きです。私が小学生のころ、図書室で、何回も何回も繰り返し読んだ本があります。その本はオリンピックで活躍したアスリートの物語をいくつかまとめた本でした。今でも覚えているのは、その本の中に書かれていた1936年ベルリン大会での物語です。物語のタイトルは「友情のメダル」だったと今でも記憶しています。陸上競技棒高跳びの決勝は、5時間を超える大熱戦になりました。アメリカ合衆国のメドウズ選手が4m35cmを跳び金メダルが確定しました。4m25cmを跳んだ日本人の大江季雄選手と西田修平選手は、2・3位決定戦を行う予定でしたが、2人はそれを辞退しました。疲れ果てていたとともに、日本人同士で争うことはないと考えたのだそうです。帰国後、2人は銀と銅のメダルを半分に割り、つなぎ合わせたメダルに作り直しました。それが友情のメダルです。その頃の私は、アスリートの懸命に競技に取り組む姿とともに、友情についても深く考えたことを覚えています。

前回の東京大会でも大変感動した場面がありました。それは、オリンピックの新種目スケートボード女子パークでの出来事です。金メダルをとったのは四十住さくら選手。しかし、私が注目したのは、4位で最後の演技を終えた岡本碧優選手です。岡本選手は当時世界ランキング1位。世界選手権でも優勝経験があり、オリンピックでも金メダルを期待されていました。3回の演技を行う決勝で、2回目までは暫定の3位。ところがイギリスの選手が3回目に素晴らしい演技で3位に滑り込みました。いよいよ決勝3回目。最終演技者は岡本選手。岡本選手は、メダルをねらって、とても難易度の高い演技に果敢に挑戦しました。しかし、最後のジャンプで失敗して4位になってしまったのです。ところが、その時、多くの選手が集まり、岡本選手を抱え上げ、みんなで健闘を称えました。私はこのシーンを見ながら、新しい時代がやってきた気がしました。相手を認め、互いを尊敬し、努力した人をみんなで称え合う。スポーツの場面での思いやりの心が現れた感動的な場面でした。

子どもたちも様々な機会を通して、スポーツの素晴らしさを感じ、自分自身の生活に生かしていただきたいと思います。7月に入りました。1学期まとめの月です。今月も本校の教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。